

町田市議会議員:3 期連続トップ当選

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野2-2-22

☎042-724-2171

保守の会会派室



2017 年撮影

町田市のガラス工芸品の価値

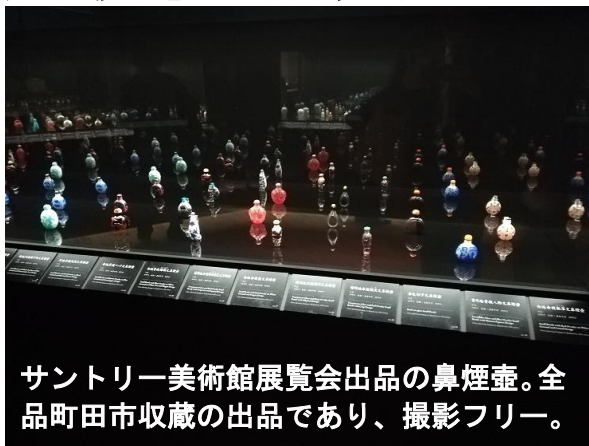
六本木にあるサントリー美術館を訪れ、「ガレも愛した—清朝皇帝のガラス」展を鑑賞しました。入場者は少なく、この種の作品の人気度は明らかに低いものでした。



全体は5コーナーで構成されていましたが、町田私立博物館所蔵の作品が2つのコーナーに配置されていました。一方は、清朝時代の作品のコーナーに数点展示されており、特別のものには思えませんでした。他方は、「エピローグ—清朝ガラスの小宇宙」の全作品！が、町田市所蔵の「鼻煙壺」と言うものでした。ウキペディアの記載によれば、「鼻煙壺（びえんこ、Snuff Bottle）」とは嗅ぎ煙草を入れておくための容器、喫煙具のこと。その形や色や大きさは様々である。大きさは小さいことがほとんどで、大きくても高さ10cmに満たない場合が多い。だいたい高さ数cm程度の小さな容器である。」と記載されています。「鼻煙壺」を一般の人が使用しないにしても、芸術品と呼ぶには違和感があ

ります。なぜなら、当時の上流階級（高い収入が得られる階層）の人々にとっては、日常生活用品と言えるものでしょう。つまり、無数に製造されているものです。ネットで調べてみると、それを国内で千個も所蔵している施設が大阪にありました。

町田市は、それらの所蔵品を常設する施設＝町田市立美術工芸館を造る準備を進めていますが、町田市がそれを税金で用いて行うことが必要とは思えません。本当に、その無用な施設を造るのでしょうか？



サントリー美術館展覧会出品の鼻煙壺。全品町田市収蔵の出品であり、撮影フリー。

観光地化施策の研修を受ける

市議会では、清水愼一講師（総務省・地域力創造アドバイザー）を迎え、観光地域づくりの研修を受けました。世田谷区の商店街活性化などに活躍されているとのことでした。同区内の事業として、居住外国人との共同イベントで多数の人が集まるそうでした。区の人口が80万人を超しており、特別の取り組みが無くとも多数の人が集まるようです。一般の商店街活性化とは縁遠い内容でした。

★ 政党は無所属・市議会は保守の会 総務常任委員会に所属

URL <http://j-expert.jp/> 動画 <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

メール送信
QRコード



編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ（自宅）

町田市議会議員・納税者主権

吉田つとむ

若い人のために全てをささげる

町田市議会
〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
☎042-724-2171
保守の会会派室



インターン生募集中

研修レポート②⑤宇都木 彩名

町田市立国際版画美術館へ行き、友の会という会の定例総会を見学してきました。「友の会」は美術館とは独立した会員によって組織されています。会員の自主的なボランティア精神によって企画運営を行っており、吉田議員も会員の一員としての参加であり、作品は鑑賞する立場で、イベントのときはボランティアの立場として参加しているそうです。



この会には美術の教養を高めたい人や、彫刻、絵画が好きな方々が多く、自分でそれらを製作することが好きな人が大勢集まっています。私はその「友の会」の存在を今日初めて知りました。友の会は 1997 年に発足したので、私が生まれる前から続いている団体ということになります。この団体がこのように長く続いているのは、美術を愛する人々の支えがあるから故にだと感じました。

今回の会議では、私は吉田議員に同行する形で行きました。本年度、来年度予算の承認や今後活動する予定のイベントを中心に会議が進められていきました。イベントは美術

館見学バスツアーや絵画教室の実技講座などを行うそうです。これは美術に関する知識を増やすのと同時に、会員同士の良い交流の糧になっているのではないかと思います。

自分の好きなことを仲間と共有するのは素敵なことです。そのような人々のために、友の会と町田市立国際版画美術館は大切な役割を担っているのだと実感しました。

宇都木彩名 津田塾大2年生(第39期生)

研修レポート⑤立木優花

4月4日は株式会社エクシオジャパンの高齢者施設を訪問しました。専務取締役の小林教則様より施設の案内、高齢化によるこれからの福祉事業の課題や解決法などのお話を伺いました。現在、相模原市内で数多くの高齢者施設を展開されています。一般的な施設と比べて低価格であり、利用者が充実した生活を送れるようにと様々な工夫をされています。例えば近所の畑で入居者の方々と野菜を作り、施設の食事を利用することや井戸水を生活用水にすることなどで入居費を抑えているそうです。



施設は特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホームに大きく分かれていて、

●吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧の上、ご連絡ください。

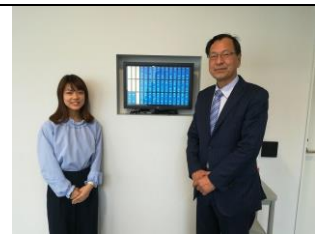
町田市議会議員・議会報告

吉田つとむ

若者育成の街・交通文化都市



左上はブログ
右上は新規の
ビジュアルサイト



市議会の傍聴・見学

今回はすべての種類の施設の見学をしました。中でも新しく作られた「見守り付き高齢者アパート」は全国初となる施設です。内容は、日中は管理人が所在し、18時以降はセンサーによる見守りシステムが作動し、夜中でも非常時に近隣在住の管理人が駆けつける仕組みになっています。こちらは将来的に高齢者のみならずシングルマザー・障がい者などの人々も住めるような場所を目指しているそうです。(食堂で昼食を取りました)



今後は高齢化と人口減少により介護の働き手が足りなくなります。そのためロボットなどに頼るとともに職員のスキルアップやボランティアの育成も必要であることを学ばせていただきました。そして高齢者の方が自立でき、孤立しないように地域と密着した施設の環境を整えていかなければならないと思いました。

立木 優花 東京家政大3年生(第41期生)

研修レポート⑥-1 立木 優花

4月20日は東海汽船株式会社(東証2部上場)を訪ね、山崎潤一社長と柳場旅客部副部長兼広報宣伝グループ長にお目にかかりました。竹芝の本社応接室にて、会社概要につ

いてご説明いただきました。

1889年に数社の会社が合併し設立された歴史ある会社で、首都圏や伊豆諸島、小笠原諸島を結ぶ観光及び、生活航路の役割を果たしています。伊豆諸島は東京から最短1時間45分で行ける気軽さもありながら自然が豊富であり、島それぞれに違った魅力があると知りました。例えば伊豆諸島には温泉があり、圧倒的な星空が見える等の見どころがあります。

私は終始緊張していましたが、とても丁寧に質問に応じてくださり社会で働く方々とお話する機会が少ないので良い経験になりました。伊豆諸島全体ではここ10年間で1割の人口が減っていて、高齢化や少子化は今後の課題であるそうです。若者向けに島の情報発信をし、興味を持ってもらうことが必要だと感じました。また、車は環境問題を考えた電気自動車などの開発が進んでいるが船はどのような取り組みを行っているか質問しました。船は車と比べ全体的に開発が遅れているが東海汽船の貨客船「橘丸」にはスーパーエコシップ(環境に有害な物質の排出が少ないCO2削減を行う等)が導入され、環境問題に取り組まれているそうです。



立木 優花 東京家政大3年(第41期生)

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ(自宅)

町田市議会議員 議会活動報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



開かれた議会を作る

公文書の決裁と取扱

国政では、公文書の取り扱いが大きな話題になりました。「破棄したので存在しない＝(不存在)」と称してきたこと、さらには公文書記録を改ざんして文書を公開したことで内閣は大きな信頼を失いました。

町田市議会では、これまでも会議と会議録を全面公開としてきたし、議長交際費はその対象日と使用目的が議会HPで公開されています。少なくとも、自分が議長として関わった29年度分については、(一部副議長に依頼)吉田つとむの行動と理解していただいて結構です。私にその詳細を尋ねられると、安倍総理の元補佐官のような嘘や詭弁を用いることはなく、正直にお答えできます。

さらに、市議会会派の「政務活動費」の使用も領収書の原本公開に追加して、ネット公開も昨年度分から実施しています。また、その帳簿は会派内で保管していましたが、議長の元に(その記録方法を統一した上で)収集し、新たに公開対象に加えることを決定しています。過去分の公開に関しては、「町田市行政不服審査会」の指示に沿い、全当事者が資料の提出も行いました。*以降で詳述。



交際費支出対象
議長公務出席当時(2月)の写真

高齢者住宅の在り方

「介護施設が足りない」、「特養ホーム」が不足していると言われて久しいのですが、入居がスムーズな民間の介護施設に入ると、その家族には毎月30万円の支払いが待っています。そうした人の中で「低額の施設(特養)」に入りたいので、どうかしてほしい」という相談を受けることもあります。当事者の方々にとってみればもっともな話ですが、「特養ホーム」を無限に増設するのでは土台無理な話と考えています。



今回、インターン生を同行(関連記事あり)して、全国初とされる「見守り付き高齢者アパート」を見学しました。介護の方法を取らずに高齢者が同じ建物に居住するものですが、任意に食事サービスもその建物内で受けられるシェアハウスという感じがありました。介護は必要な人には、本人が選択して介護サービスが受けられるように配慮されたものでした。高齢者が保証人なしで本人のみで契約できる住居は珍しく、都市部ではこの種のアパートが大きく伸びることは確実ですし、行政の税負担の大幅な軽減につながると思われました。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ この印刷物は、政務活動費を一切使用していません。自前の費用で発行するものです。

Mail:yoshidaben@gmail.com ご質問やご相談をお寄せください。